

第7次山口県保健医療計画 中間評価・見直しの概要

第1部 趣旨

第1章 中間評価・見直しの趣旨

- 山口県保健医療計画（平成30年度～令和5年度）では3年ごとに調査、分析及び評価し、必要に応じ計画を見直すこととされている。
- このことから、数値目標により現在の進捗状況を把握するとともに、在宅医療その他必要な事項について見直しを行う。

第2章 計画策定後の主な動き

- 本計画は、医療法第30条の4第1項の規定に基づく医療計画
- 県の関連分野の計画策定・改定等との整合を図る必要がある（健康やまぐち21計画、高齢者プラン、やまぐち歯・口腔の健康づくり推進計画等）

第2部 中間評価・見直し

第1編 総論

第1章 評価・見直しの考え方

- 疾病・事業ごとの指標及び数値目標により、進捗状況を把握。
- 進捗状況が「達成」の指標や目標年次を迎える指標は再検討。
- その他、保健・医療に係る状況の変化に応じ、指標を追加・見直し。

第2章 数値目標の現状

全82項目について下記のとおり評価

分野別	疾病・事業	項目数	達成	改善	維持・後退	その他
			目標値を達成	基準値（策定時）から改善	基準値（策定時）から維持・後退	統計が未公表等で確認できない
5 疾病	がん	28	11	7	8	2
	脳卒中	12	1	5	4	2
	心筋梗塞	11	2	5	2	2
	糖尿病	5	1	0	2	2
	精神疾患	6	1	2	3	0
5 事業	救急医療	2	0	2	0	0
	災害医療	4	1	3	0	0
	へき地医療	3	0	2	1	0
	周産期医療	2	1	0	1	0
	小児医療	3	1	0	2	0
	在宅医療	6	2	4	0	0
	計	82	21	30	23	8
		100%	26%	36%	28%	10%

第2編 5疾病

第1章 がん

- 数値目標の現状（主なもの）
 - がん年齢調整死亡率は長期的な低下傾向を維持。
 - がん検診受診率は進捗が遅れているが、数値は一部改善。
- 今後目指すべき方向（取組事項）
 - がん検診受診率を更に向上させる取組
 - がん拠点病院等の機能強化 等
- 見直し後の目標設定
 - 現在の目標を引き続き設定

第2章 脳卒中

- 数値目標の現状（主なもの）
 - 高血圧の人の割合、LDL コレステロール値が高い人の割合は改善傾向。メタボリックシンドローム該当者等の割合はやや悪化。
- 今後目指すべき方向（取組事項）
 - 生活習慣病等の予防に関する取組の強化 等
- 見直し後の目標設定
 - 現在の目標を引き続き設定

第3章 心筋梗塞等の心血管疾患

- 数値目標の現状（主なもの）
 - 高血圧の人の割合、LDL コレステロール値が高い人の割合は改善傾向。メタボリックシンドロームの該当者等の割合はやや悪化。
- 今後目指すべき方向（取組事項）
 - 生活習慣病等の予防に関する取組の強化 等
- 目標設定
 - 現在の目標を引き続き設定

第4章 糖尿病

- 数値目標の現状（主なもの）
 - 糖尿病有病者割合はやや悪化。
 - 血糖コントロール不良者の割合は目標に向け順調に推移。
- 今後目指すべき方向（取組事項）
 - 糖尿病の発症予防、重症化予防についての切れ目のない対策 等
- 目標設定
 - 現在の目標を引き続き設定

第5章 精神疾患

- 数値目標の現状（主なもの）
 - 長期在院者数は減少傾向だが、1年以内退院率の進捗はやや遅れ。
 - 認知症サポーター数養成者数はおおむね順調に推移。
- 今後目指すべき方向（取組事項）
 - 退院後に地域で安心して生活できるような支援体制の強化
 - 認知症サポーター等による支援チームによる支援 等
- 目標設定
 - 地域移行を進めるため下記目標を追加。また一部目標を時点修正。

追加した目標	基準値	目標値
精神病床からの退院後1年以内の地域における平均生活日数	301日 (H28年)	316日 (R5年)

第3編 5事業

第1章 救急医療

- 数値目標の現状
 - 時間外救急患者中、特別な処置を必要としない者の割合は低下。
 - ドクターヘリのランデブーポイント数は進捗遅れだが増加。
- 今後目指すべき方向（取組事項）
 - 救急医療機関の適正受診の呼びかけ
 - ランデブーポイントの更なる確保 等
- 目標設定
 - 現在の目標を引き続き設定

第2章 災害医療

- 数値目標の現状
 - 耐震基準を満たす災害拠点病院等の割合は進捗遅れだが改善。
 - 災害医療コーディネーター数や県による災害訓練実施回数は順調。
- 今後目指すべき方向（取組事項）
 - 国の補助金の活用等による耐震化の推進
 - 災害医療コーディネーターの増や災害訓練の継続実施 等
- 目標設定
 - 災害医療コーディネート体制の充実を図るため下記目標を追加（周産期医療・小児医療と共通）

追加した目標	基準値	目標値
災害時小児周産期リエゾン任命者数	11人 (R2.4)	15人 (R5.4)

第3章 へき地医療

- 数値目標の現状（主なもの）
 - へき地で勤務する総合診療専門研修プログラム専攻医数は増加。
 - へき地診療所への代診医等派遣日数はやや悪化。
- 今後目指すべき方向（取組事項）
 - 医師の養成・確保等によるへき地医療拠点病院の機能強化 等
- 目標設定
 - へき地医療拠点病院の機能強化を図るため下記目標を追加

追加した目標	基準値	目標値
へき地医療拠点病院の中で巡回診療・医師派遣・代診医派遣の年間実績が合算で12回以上の医療機関の割合	85.7% (R1年度)	100% (R5年度)

第4章 周産期医療

- 数値目標の現状
 - 周産期死亡率はおおむね全国平均並み。
 - 女子人口あたり産婦人科・産科医師数は目標達成（全国平均以上）。
- 今後目指すべき方向（取組事項）
 - 周産期母子医療センターへのハイリスク妊産婦・新生児の迅速な搬送等に向けた役割分担と連携強化
 - 災害発生時に対応した災害時小児周産期リエゾンの確保 等
- 目標設定
 - 災害時医療体制の充実を図るため下記目標を追加
 - 災害時小児周産期リエゾン任命者数（災害医療と同じ）

第5章 小児医療

- 数値目標の現状（主なもの）
 - 小児人口あたりの小児科医師数は目標達成（全国平均以上）。
 - 小児救急医療電話相談事業の相談件数は令和元年度に大幅減少。
- 今後目指すべき方向（取組事項）
 - 小児救急医療電話相談事業の更なる普及啓発
 - 災害発生時に対応した災害時小児周産期リエゾンの確保 等
- 目標設定
 - 災害時医療体制の充実を図るため下記目標を追加
 - 災害時小児周産期リエゾン任命者数（災害医療と同じ）

第4編 在宅医療

- 数値目標の現状（主なもの）
 - 在宅療養支援病院・診療所、在宅療養支援歯科診療所数は順調に増。
 - 訪問診療を行う医療機関数は改善しているが進捗が遅れ。
- 在宅医療の必要量
 - 高齢化の進行による訪問診療患者数の増加や、療養病床の転換等に伴う介護サービスの整備量を踏まえ次のとおり見込む。

令和5年度までの在宅医療の必要量 (単位 人)								
全県	岩国	柳井	周南	山口・防府	宇部・小野田	下関	長門	萩
9,150	810	417	1,540	1,872	1,833	2,285	79	314

- 今後目指すべき方向（取組事項）
 - 今後の需要増に備えた在宅医療機関の拡大や多職種連携の取組 等
- 目標設定
 - 在宅歯科医療の充実のため下記を追加。また一部目標を時点修正。

追加した目標	基準値	目標値
訪問口腔衛生指導を実施している診療所・病院数	81箇所 (R2年度)	増加させる (R5年度)